

## 【意見の概要とそれに対する市の考え方】

No	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	<p>「WBGT」による評価はかなり以前から言われてきましたが、私の周りでは認知度が低く、温度による評価しか頭がない方が多いようで、湿度による体へのダメージが認識されていない感じ です。</p> <p>市報などによる啓蒙の中に「WBGT」について詳しく説明していただきたいと考えます。</p>	<p>暑さ指数（WBGT）は、熱中症予防にとって有効な数値ですので、暑さ指数（WBGT）を基準に発表される「熱中症警戒アラート」の活用を市報、市ホームページ等で周知していく中で、暑さ指数（WBGT）についても併せて周知してまいります。</p>
2	<p>発汗期において、水分の補給はもちろんですが、ミネラル（特に塩分）の摂取も重要と考えます。熱中症対策に適した飲み物や、飲み方（水分＋アルファ）の啓蒙をお願いします。</p>	<p>熱中症予防については、こまめな水分補給に加え、塩分の補給が有効であると考えていますので、市報、市ホームページ等で適切な摂取方法による予防行動を促すよう周知してまいります。</p>
3	<p>特に高齢者は暑さを感じにくいと言われております。熱中症予防策の「暑さ指数の測定値などを把握する」とありますが、高齢者宅へ測定器の貸与や斡旋ができないものでしょうか？</p> <p>住宅環境により外気の影響を受ける程度は違いますので、目に見える事が一番分かりやすいと思います。高齢者向けの情報発信は市報やチラシ・リーフレットだけでは効果が低いと考えます。可能であれば専門家（保健師など）と民生委員や区長（当町内は民生委員不在なので）対話による啓蒙活動が有効的だと思います。</p> <p>実態を伺い、そのお宅に適したこまめなアドバイスや指導ができるのではないかと思います。件数が非常に多くなりますが、災害時見守りカード対象者などに絞って可能な範囲で行い、それ以外は町内毎にできる範囲で対話を行うなどの対応はどうでしょうか。</p>	<p>本市では高齢者の自宅における熱中症の救急搬送率が高くなっていることから、高齢者を中心としたいわゆる熱中症弱者への支援が重要と考えております。</p> <p>高齢者宅への測定器の配備も有効な手段と考えられますが、アラート発表時には、市民一人ひとりが、迷うことなく冷房の使用、水分補給、外出の自粛等の予防行動を徹底することが最も重要であると考えております。</p> <p>そのため、高齢者世帯や要支援者世帯については、市及び関係機関による訪問時での声掛けを積極的に行ってまいります。</p> <p>併せて、保健師による集落や地域の茶の間での健康教育においても、熱中症対策をしっかりと周知してまいります。</p>